

年頭の辞

新年のご挨拶



一般社団法人 軽金属学会
会長 伊藤 吾朗

会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。

さて当学会の動きとして、最も多くの方が実感した変化は昨年の第135回秋期大会から会期が2.5日になったことではないかと思えます。このことも含め、昨年の本欄でいくつか検討中の事項を上げましたが、各委員会の委員長、担当理事、委員の皆様のお蔭で、ほぼすべて実施することができました。関係各位には厚く御礼申し上げます。

具体的には、講演大会に関係したところでは、やはり秋期大会から概要集の電子化を行うとともに、この大会で躍進賞、奨励賞、女性未来賞を受賞された方々から、受賞講演を行っていただきました。私も受賞講演のいくつかを拝聴しましたが、会場はほぼ満席の状況で、しかも一般講演と同じ時間でありながら受賞者の業績が凝縮されていて、有意義な講演であったと感銘を受けました。これまで軽金属学会賞と小山田記念賞の受賞者だけが受賞講演を行っていたところでしたが、今年の第136回春期大会からはさらに功績賞についても受賞講演を行う予定であり、今後ますます大会が充実すると期待されます。

スマートフォン対応も含めた学会ホームページの改訂もほぼ終わり、皆様に親しみやすい姿で今まで以上に活発に情報発信できるようになったと思えます。これまで支部主催、あるいは講演大会の前日にしか行われてこなかった見学会でしたが、本部（企画委員会）主催の見学会もはじめて実施しました。国際交流関係では、ALMA2018 Forumを秋期大会の2日目に従前のプログラムと並行して行いました。さらに、2022年開催予定のアルミニウム合金国際会議（ICAA18）についても、昨年カナダで開かれたICAA16における松田副会長のプレゼンが功を奏し、日本（富山）での開催が決まりました。

準備WGでの議論を経て、男女共同参画委員会を新しい常設委員会として立ち上げ、104の理工系の学協会からなる男女共同参画学協会連絡会にオブザーバー加盟しました。新委員会の下での女性比率データ調査の結果、2002年との比較で、総会員（1.5%→4.2%）、正会員（1.2%→3.7%）、学生会員（4.4%→9.8%）と、正会員で3倍以上、学生会員で2倍以上に増加したことがわかりました。男女共同参画の問題については昨年の本欄でダイバーシティの問題に絡めて述べましたが、その後、マッキンゼー・グローバル研究所により、女性が男性並みに働いた場合、2025年には、世界のGDPは日本円でおよそ3100兆円増加するという試算がなされたそうです。これはアメリカと中国を合わせた経済規模に匹敵するとのこと。人材難と言われている中で、この経済効果を利用しない手はないと感じます。

以上のほかにも、各委員会委員長、担当理事のご尽力で学会がより一層発展するよう努めております。会員皆様の忌憚のないご意見をお寄せいただき、より一層の学会の発展に、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

さて学会の外に目を移すと、昨年は、豪雨、猛暑、台風、地震など天災と、それに端を発した橋の破損による関西空港の孤立、大規模停電など関係者の備えにより防ぐことができた、いわば人災がありました。政治関係では、「私の記憶する限りは……」と繰り返し答えているうちに、マスクも騒がなくなり、スポーツ界では、冬季平昌オリンピックなど世界を舞台に活躍した選手が多数現れた反面、指導者や協会など本来選手を支えるべき人々の中にその資質を疑われる人がいたことも多く報じられました。そして11月には、世界的な自動車会社のトップが報酬の不正操作の容疑で逮捕されました。

技術・工学の分野では、AI、IoT、ビッグデータ、Society 5.0、第4次産業革命といった情報工学、および情報と他の産業の連携に関するキーワードが一昨年にも増して頻出した年でもありました。一方で製造業では一昨年に続き、日本を代表するものづくり企業で検査不正が明るみに出ました。昨年のこの紙面で、納期厳守・コスト低減のプレッシャーとともに、検査軽視の体質・検査人材の不足を原因に上げました。当面は検査人材を育成していくしかありませんが、いずれは複雑な検査もAIを搭載したロボットが行う時代が来るかもしれません。わが国の約100の工学系学協会を束ねる公益財団法人日本工学会でも「AIやIoT、ビッグデータ、人口減少や価値観の多様化、生活の多様性、地球温暖化など大きく変わる科学技術環境や内外の社会環境の下、我が国のものづくりは大きな曲がり角にさしかかっている」ととらえ、昨年11月に「日本のものづくりはこのままでよいのか」とのテーマで基調講演・パネリスト講演・総合討論からなる会長懇談会を開催しました。官およびいくつかの学会からこの変革に対する取組みが紹介されました。

前述のように暗いニュースが多かった昨年ですが、その中で本庶 佑（ほんじょ・たすく）先生がノーベル医学・生理学賞を受賞されたことは、学身に身を置く者にとって大変喜ばしいニュースでした。会見等で述べられた、好奇心が大切、基礎研究が重要、ある程度の資金のばら撒きは必要、教科書や論文に書いてあることを簡単に信じてはいけない、著名誌に載らなくても良い研究がある、研究が人の役に立てたことを実感できたことが賞よりうれしい、など多くの名言には、大いに励まされました。

末筆になりましたが、皆様のご多幸・ご健勝と益々の発展を祈念して、年頭の辞とさせていただきます。